

協働

市民参画のまちづくり

必要だからつながった わたしの思い、みんなの思い...

「協働」とは、行政、企業、市民活動団体（NPO）など、異種・異質の組織が共通の目的を果たすため、それぞれの資源や特性を持ち寄り、対等の立場で協力して働くことです。市では、地域の実情をよく知っている市民の皆さんとともに、様々な課題に対して知恵を出し合い、協力しながらその解決を図っています。

問合先 ボランティア情報センター
☎56・5160 ☎56・5161
✉npo-info@mx2.tees.ne.jp
🌐http://www.tees.ne.jp/ npo-info/

NPO支援活動
ボランティア情報センター
所長 白井和彦

市民活動を応援・支援しています。皆さんとつながります。つながります。



楽しく、安全で、使いやすい公園を目指しています。

環境保全活動
公園緑地課
担当 小山利浩



子育て支援など地域での生涯学習活動を応援します。

生涯学習支援活動
社会教育課
担当 高田知加子



国際交流活動
多米小学校国際学級
担任 山田ひとみ

学校・保護者・地域が協力して子どもの健全育成や外国籍市民との共生に努力しています。



きょう
うりよくして
う
ごきだそう！

協働

「豊橋をもっと楽しく、住みやすいまちにしたい」という思いで市民活動団体（NPO）は活動しています。しかし、現実には価値観や考え方の違いなどから問題を共通認識できず、解決に向けて進んでいないことも多くあります。今回紹介するNPOは、市と協働して充実した活動を続けています。

子育て支援 豊橋子育てネットゆずり葉

子どものため親・各団体・行政がつながり続けてほしい



子育て支援
ハンドブック

子育てには乳幼児期からの継続的な支援が必要です。そこで、様々な年齢・立場の子どもたちと携わっている団体も、よりネットワークをはりめぐらせたつながりが求められていると考え、「豊橋子育てネットゆずり葉」が昨年7月に誕生しました。

立ち上げ準備会では、参加団体と市の関係11課が意見交換をしたり、アンケート調査を行ったりしながらネットワークのあり方を模索しました。そして、第一に取り組むべきこととして、団体間の情報交換・共有と外部への情報

提供という共通認識を得ました。その第一歩として、市と協働で作成した情報誌「子育て支援ハンドブック」(0〜18歳の子育て支援を掲載)を発行することができました。「豊橋子育てネットゆずり葉」に参加する各団体が、互いの活動・役割を知り、尊重し合うことで思いが繋がると信じ、今後も活動を続けます。



「ネットワーク立ち上げ準備会」の様子



福祉・NPO支援活動
福祉レクリエーションつくし
代表 桑原明美さん

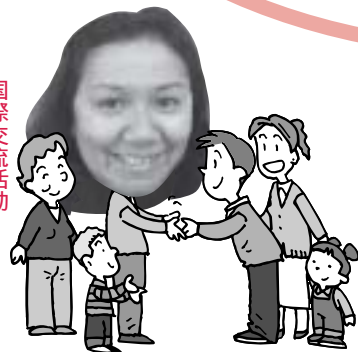
簡単なゲームなど障害を持つ方と楽しんでいきます。市民活動講座の講師もしています。



環境保全活動
岩屋緑地に親しむ会
代表 松井平さん



子育て支援活動
豊橋子育てネットゆずり葉
代表 吉田典子さん



国際交流活動
NPO法人
ボランティアとよはし
会員 大本グロシアさん

外国籍市民のための学習サポート教室や料理教室などを開いています。

ど
んなことでも
解決できる
んとよくなる
豊橋のまち

協働Q&A

Q1 市民活動ってなに？

A 自分たちのまちは自分たちの手で住みやすいまちにしようと考え、市民が行っている自発的な活動のことです。市内には、介護の手助けや外国人との交流、環境や子どもための活動などをしている方が多くいます。

Q2 NPOとボランティアの違いって？

A どちらも営利を目的とせず、その活動の結果が社会のためになるという点が共通しています。NPOは

「Non-profit Organization（民間非営利組織）」の略称で、その名の通り組織として活動しています。例えば、「川をきれいにしたい」と考える方が一人で清掃した時は個人のボランティア活動ですが、賛同者を得て社会の利益のため、より活発に活動する組織として成長した団体がNPOです。なお、NPOの中でもNPO法人は、法律に基づき認証を受けた団体をいいます。

Q3 身近な協働には、どんなものがありますか？

A 農政課と協働して活動を続けている「吉祥山ボランティアの会」やボランティア情報センターと公募による市民編集委員が協働で編集している「ぱるネット」などもあります。



ぱるネット12号
好評配布中

環境保全 岩屋緑地に親しむ会

「夢のある里山をつくりたい」



森祥剛さん
自分が楽しいと思うことが長続きの秘訣

わたしたちの会は、市が開催した「里山管理ボランティア講座」を受講した有志により発足し、「身近にある公園で市民と一緒に里山づくりをしたい」と考える市と「岩屋緑地をみんなが楽しめる公園にしたい」と考える会の思いが重なり、活動が始まりました。

しかし、岩屋の自然を整備するには、どんな植生を守ればいいのか、どんな里山が利用されやすいのか、市の担当者と一緒に他市の情報を得たり、勉強会をしたりして学びながらの活動となりました。工事など予算が必要な

わたしたちの会は、市が開催した「里山管理ボランティア講座」を受講した有志により発足し、「身近にある公園で市民と一緒に里山づくりをしたい」と考える市と「岩屋緑地をみんなが楽しめる公園にしたい」と考える会の思いが重なり、活動が始まりました。

しかし、岩屋の自然を整備するには、どんな植生を守ればいいのか、どんな里山が利用されやすいのか、市の担当者と一緒に他市の情報を得たり、勉強会をしたりして学びながらの活動となりました。工事など予算が必要な

ハード面は市が、枯れ葉集めや間伐など人手が必要なソフト面は会が担っています。一方、運営面では、日本財団の「はじめの一步助成」を見つけて応募し、これが最初の活動資金となりました。

その後も様々な助成をいただき、今年度は都市緑化基金からの助成で「四季のときめきの森」を整備し、楽しいイベントも企画しています。



落ち葉を使った堆肥作りのようす



ボランティア情報センター
マスコットキャラクター
アーリーくん

一人ひとり小さいけれど、みんなで協力して大きな仕事をやりとげちゃおう！